

6 おわりに

急傾斜地崩壊対策手法の計画における崩壊深推定手法の確立を目指し、崩壊発生から数ヶ月以内に、重錘の重量を変更できるように改良した簡易貫入試験機と 1 打撃毎の貫入量を自動計測測定・記録できるデータロガーを用いて、崩壊地内外の貫入抵抗値 (N_c 値) の分布を測定した。その上で既存の研究を含めて整理・検討したところ、地質によらず、すべり面の N_c 値は 10 程度であり、 N_c 値が 20 以上の層は、崩れずに斜面上に残っていることがわかった。

また、本資料では 5 章において、事前に調査対象箇所の近隣で生じたがけ崩れ発生斜面で調査を行い、対象とする地域の土層構造の特徴、すべり面の発生部位を明らかにした上で、調査対象斜面の貫入試験を実施し、崩壊の恐れのある層厚及びその空間分布を推定する手法を提案した。

神奈川県、静岡県、新潟県の担当の方々には、調査にご協力いただき、本研究の遂行上必要不可欠なデータの取得にご協力いただいた。また、ジオグリーンテック株式会社の長谷川秀三、中野裕司、漆崎隆之の各氏に調査への協力、有益なご助言をいただいた上、研究の方向性に関する議論に加わっていただき本研究の遂行において多大な協力を得た。末尾ではあるが、記して謝意を表したい。